

琉球大学学術リポジトリ

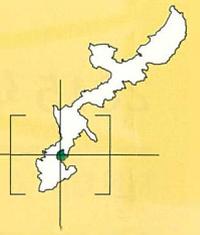
Ryudai News Letter `15(Vol.19)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2024-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 琉球大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002020340

Ryudai

[琉大ニュースレター]

琉球大学の事業や各学部が取組が分かる!



News Letter'15



地域創生総合研究棟

- p2 学長年頭挨拶
- p4 教育・研究
- p6 就職
- p9 管理運営
- p12 社会連携
- p14 国際交流
- p16 受賞等
- p18 学生活動

琉球大学附属図書館



0020228017617

地域創生総合研究棟
オープニングセレモニー

Vol.19

2015.03



1. 新年の祝詞

新年明けましておめでとうございます。教職員の皆様には希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も皆様のますますのご活躍とご発展をお祈りいたします。

2015未年は、IT人材の供給不足の顕在化をはじめ、年金受給人口の急激な増大、さらには人類滅亡説まで、様々な業界や分野で「2015年問題」がささやかれています。株の世界では未年は辛抱の年と言われますが、個人的には、2015年は社会における様々な組織の枠組みが確立していく年であると思っております。私ども国立大学にも2015年問題があるかもしれませんが、それを乗り越えて、組織の骨格を立て直す年にしたいと願っております。

2. 琉球大学にとっての2015年

さて、2015未年は、琉球大学にとって創立65周年に当たりますが、学校教育法と国立大学法人法の改正を受けた学内規則等の整備を踏まえ、法人としての枠組みをしっかりと固める年になります。2015（平成27）年度は、第2期中期目標期間及び大学改革加速期間の最終年度でもあり、大きく潮日が変わる年の前年でありませぬ。強いて言えば、これが国立大学の2015年問題かもしませぬ。

昨年の学校教育法等の改正によって、大学ガバナンスの改革を推進する環境が整いました。本来、ガバナンス改革は大学が自主的・自律的に行うべきものとされています。ガバナンス改革によって、教育、研究、診療、地域連携、国際連携を円滑に実行できるよう、大地にしっかりと根を張った大学の運営基盤を確立しなければなりません。しっかりした運営基盤の上に、過去に出した課題の検証と不確実な将来を見通す分析力を磨き、スピード感をもって戦略的に中期計画をはじめ各種プロジェクトを実施し、着実に成果を上げていくことが求められます。

国の財政が、年々、厳しくなっていく中、不足する経費を要求すれば認められるという概算要求は過去のものとなって久しく、第2期中期目標期間では、6つの類型に基づいて特別プロジェクトを企画・構想して獲得していくことに重点が置かれてきました。ところが、第3期中期目標期間については新たな運営費交付金の配分方法が提示される見通しであり、基盤的経費である運営費交付金についても、従来のような配分は期待できなくなると考えています。これまで概算要求で獲得していた経費はなくなり、科研費等の競争的資金をはじめ、産学官連携による共同研究・受託研究・受託事業等の拡充により外部資金を自らの手で獲得しなければならなくなると考えています。そうしなければ、ますます教育研究経費は先細りになり、大学の活力が低下するのは避けられません。各部署等においてのみならず全学的観点から、効率的な資源配分に努めることと併せて、増収対

策と経費節減対策を考え、工夫していかなければ、大学の諸活動が立ちゆかなくなります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

3. 大学の機能分化と本学の位置づけ

昨年12月に開催された政府の産業競争力会議において、国立大学の機能分化として、次の三つの類型が示されました。

- ①世界最高水準の教育研究拠点
- ②特定分野重点支援拠点
- ③地域活性化・特定分野重点支援拠点

各国立大学は、これらの類型の中から一つを余儀なく選択させられるところにきております。第3期中期目標期間の運営費交付金は、選択した機能類型に従って、それぞれの成果指標に対する評価に基づいて、配分されることとなります。

本学のような地方国立大学は、自ずと第三の類型である「地域活性化・特定分野重点支援拠点」を大学の機能として設定せざるを得ない状況にあります。とはいえ、本学の大学像を実現するためには、地域から世界へ飛び立つ気概はつねに持ち続けなければなりません。

では、琉球大学はこの第三類型の大学として、社会の評価に堪え、存続していけるでしょうか。ここに一つのデータがあります。それは、昨年12月1日及び15日付けの「日経グローバル」誌に掲載された地域貢献度ランキングです。これは、日本経済新聞社産業地域研究所が実施した調査に基づいて行っている大学ランキングです。「大学が人財や研究成果をどれだけ地域振興に役立っているかを探る」ために、地域貢献の推進体制などをみる「組織、制度」、学生の地元企業への就職や災害支援の実績などの「学生、住民」、産学連携や大学発ベンチャーを中心とする「企業、行政」、留学生への就職支援や地域の国際化への取組をみる「グローバル」の4分野を評価したものです。調査に回答した大学は747大学のうちの526大学(国立82、公立70、私立374)でした。

地域貢献度の総合ランキングをみると、2014年の1位は信州大学、2位は群馬大学、3位は宇都宮大学であり、本学は41位でした。九州・沖縄地域では第6位でした。琉球大学の場合、2012年は412位、2013年は190位、2014年は41位でしたので、ゴボウ抜きでは全国トップであり、よく健闘したと思います。2015年のランキングには、今年度の取組結果が反映されますので、さらなるランクアップを目指したいと考えているところです。

政府が進める「地方創生」の観点から、地域への人材供給拠点としての地方国立大学の役割に対する期待が大きくなってきており、本学も地域との連携を密にして、地域からの期待と信頼に応える大学とならなければなりません。いまこそ、本学は大学資源をフルに活用して、地域の「行動するシンクタンク」としての機能を発揮し、琉球諸島の地域創生に貢献するまたとないチャンスであります。

4.2014年の取組概要

残念ながら、同様の国公私立大学の教育と研究についてランドマークとなるような評価指標はありませんが、昨年(今年度)に実施した多くの取組の中から特徴的な部局等の取組について、いくつか順不同で列記します。

- ①うりずんプロジェクト～沖縄型インターンシップの展開
- ②環太平洋大学コンソーシアム構築の始動
- ③法文学部附属水中文化遺産研究施設の設置
- ④大学COC事業の推進
- ⑤熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設新管理棟の完成
- ⑥地域創生総合研究棟の完成
- ⑦頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムの始動
- ⑧医学部・同附属病院の国際医療拠点構想への参画
- ⑨文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムの始動
- ⑩沖縄県地域医療支援センターの開所
- ⑪救急災害医療棟の竣工
- ⑫学長リーダーシップ経費獲得による研究推進機構の構築及びURAの導入

以上の他、教育、研究、診療、社会連携、国際連携の各分野における各学部・センター等での様々な取組や学部学生・大学院生の諸活動など、多くの取組が実施されました。

5.2015年の挑戦

以上の昨年の実績を踏まえ、大学改革加速期間の次のステップをにらみながら、第3期中期目標期間につないでいく重要な期間であるという認識のもとに、今年(次年度)に取り組みたい重点項目を順不同で列記いたします。

- ①第3期中期目標・中期計画の策定
- ②教職大学院の設置申請
- ③グローバル教育支援機構や社会連携、国際連携を支える支援機構の設置検討
- ④ラーニング・コモンズの設置
- ⑤トビタテ留学! JAPANの地域コースへの挑戦

- ⑥琉大津梁カレッジ構想の具体化
- ⑦大学の世界展開力強化事業への申請
- ⑧国際連携学科(ジョイント・ディグリー)の設置構想の取り纏め
- ⑨産学官連携事業の推進
- ⑩卒業生フォロー事業の具体化と卒業生ネットワークの形成
- ⑪運営基盤強化のための基金造成に向けた取組の開始
- ⑫COC事業の具体的展開とCOC事業プラスへの挑戦
- ⑬教員組織と教育組織の在り方見直しの検討
- ⑭教育研究組織の見直しと改組計画の策定開始
- ⑮医学部及び附属病院の移転事業へ向けた取組

これらの事業は、しっかりしたデータと実績及び財源に基づいて実行可能性を検討し、具体的な計画に載せていく必要があります。同時に、全学的に情報を共有し共に知恵を出していく必要もあります。

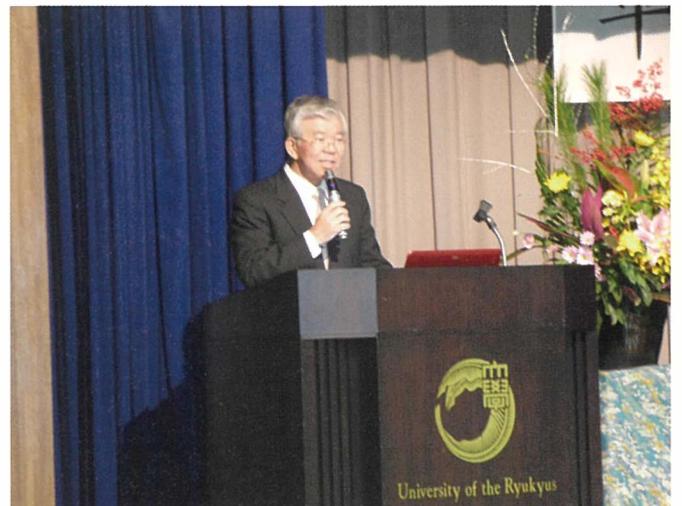
6.大学改革の基本

琉球大学の目指すところは、「地域とともに未来社会をデザインする大学」として本学が地域社会に存在感を示し、「アジア・太平洋地域における中核的な教育研究拠点」としての大学づくりを進めていくことです。

今こそ、教職員皆様の叡智を結集して、強みや特性を遺憾なく発揮できる琉球大学を創生することが重要です。イギリスの経済学者・ジョン・メイナード・ケインズの言葉を引用しますが、何か新しいことをするときの「困難は、新しい考えにあるのではなく、私たちの心の隅々に広がっている古い考えからの脱却にある」ということです。教職員の皆様の力を結集して、琉大創生に向かって、新しい考えをどしどし出していいただければと願っています。そのことによって、琉球大学は地域活性化・産業活性化を通じた地域創生に、人財の輩出とイノベーションの創出をもって貢献する大学になりえます。

今年も皆様ご家族の安泰とお幸せをお祈りし、この未年が未来へつながる年となりますようお祈りして、年頭の挨拶といたします。

2015(平成27)年1月5日
第16代学長 大城 肇





教育・研究

p4



就職

p6



管理運営

p9



社会連携

p12



国際交流

p14



受賞等

p16



学生活動

p18

教育・研究

琉球大学附属図書館、ハワイ大学所蔵「阪巻・宝玲文庫」をデジタル公開

琉球大学附属図書館では、平成26年9月1日よりハワイ大学マノア校ハミルトン図書館所蔵、阪巻・宝玲文庫（The Sakamaki/Hawley Collection）のデジタル公開を開始しました。

阪巻・宝玲文庫は、イギリス人ジャーナリストであるフランク・ホーレー氏（1906-1961）の旧蔵資料の内、琉球・沖縄関係の資料を中心としたもので、元ハワイ大学教授の阪巻駿三博士の資料を合わせた資料群として、現在はハワイ大学マノア校ハミルトン図書館に所蔵されています。

附属図書館では、昨年度から、ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館との連携事業により、同文庫のデジタル化および公開事業を進めており、全902件の内、琉球・沖縄に関する古典籍・古文書その他著作権保護期間の過ぎた資料、110件を公開しました。今年度中にはさらに110件の公開を予定しています。

琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ（<http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/d-archive/>）より閲覧可能。

現在は、画像・タイトル・タイトルの英訳・解題・解題の英訳を掲載していますが、今後は、一部の資料については翻刻文を追加掲載する予定です。



阪巻・宝玲文庫公開番号 HW441 「琉球紀事」

科学研究費助成事業説明会を開催

琉球大学と独立行政法人日本学術振興会は、琉球大学をはじめとする沖縄県内の大学・高専等の教職員らを主な対象とした「科学研究費助成事業説明会」を平成26年9月12日に琉球大学千原キャンパスにて開催しました。

琉球大学の西田睦理事（研究・企画戦略担当）による挨拶後、日本

学術振興会（JSPS）の小寺孝太郎助成第一課専門員から「科研費の最近の動向」と題して、科学研究費助成事業の制度と概要等について説明がなされました。

説明会には、本学の他に県内8つの大学・短大、高専等から研究者や事務担当者95名が参加。参加者からは科研費の制度や間接経費等について質問が多く、関心の高さが伺え、質疑応答も活発に行われました。



挨拶する西田睦 理事



JSPSの小寺孝太郎 専門員

2014年度JICA課題別研修 「熱帯地域における持続可能なバイオマスおよびバイオエネルギー利用コース」スタート

平成26年9月29日（月）から、農学部においてJICA研修コースが開講されました。

JICAの研修員受入事業は、開発途上国から国造りの担い手となる研修員を受入れ、行政、農林水産、エネルギー、保健・医療、通信等多岐にわたる分野で専門的知識、技術の移転を行うことにより人材育成支援を行うことを目的とする事業です。

「熱帯地域における持続可能なバイオマスおよびバイオエネルギー利用コース」は、熱帯バイオマス及びバイオエネルギーを自国に適合した方法で利活用できる人材を育成することで、温暖化対策と持続可能な循環型社会の実現を目指します。

同コースには6ヶ国から7名（ボツワナ2名、ブラジル1名、ブルキナファソ1名、コート・ジボワール1名、キューバ1名、ホンジュラス1名）の研修員が参加し、約2ヶ月間にわたり、バイオマス・バイオエネルギーの生産と収集技術、資材転換と利用技術、地域における利用計画の作成方法等を学びます。

研修のまとめとして、地域インフラとしての再生可能なバイオエネルギー利用システム及びバイオマスによる新規産業の創出に関する具体的なアクションプランを作成し、12月4日（木）に予定されている最終報告会において、ファイナルレポートとして発表を行います。

なお、最終報告会のほかに10月10日（金）には研修員の母国の状況を紹介するカントリーレポートが開催されます。いずれも公開ですので関心のある方は是非ご参加ください。



開講式での川本農学部長挨拶
(JICA 沖縄国際センターにて)



開講式後の集合写真

「第8回琉球大学びぶりお文学賞」授賞式を開催

平成 26 年 12 月 17 日、「第 8 回琉球大学びぶりお文学賞」授賞式が行われ、大城肇学長から受賞者に賞状と副賞が手渡されました。

同文学賞は、琉球大学が目標として掲げる「地域及び広く社会に貢献する人材」「意欲と自己表現を有する人材」育成の一環として、言語力（読む力、書く力）を向上させ、想像力、表現力、創造力豊かな学生を育成するとともに、文学の啓蒙活動を進め、地域社会における文学・文化活動のリーダーを輩出することを目的としています。琉球大学に在学する学生を対象に平成 19 年度に創設しましたが、昨年度の第 7 回から、応募資格を本学の学生と限定せず、沖縄県内の大学・大学院・高専等の学生へ拡大して実施しています。

8 回目を迎えた今年度は、学内外合わせて小説部門 10 編、詩部門 48 編の応募があり、今回初めて本学以外から受賞者が選ばれました。入賞作は次のとおり。

〈小説部門〉

= 受賞作 =

- ◎『クオリティオブライフ』比嘉正人
(沖縄大学・福祉文化学科 3 年)

= 佳作三編 =

- ◎『ディファレンス』浦松琉介
(沖縄国際大学・法学部地域行政学科 3 年)
- ◎『僕ら、この上の者』松本弦
(琉球大学・法文学部国際言語文化学科 4 年)
- ◎『青に揺らぐ』野村人鳥
(琉球大学・法文学部人間科学科 1 年)



授賞式後の記念写真

〈詩部門〉

= 受賞作 = 該当なし

= 佳作五編 =

- ◎『海岸・小景』安里和幸
(琉大・法文学部総合社会システム学科 2 年)
- ◎『つわもの』宮里春奈
(沖縄工業高等専門学校・生物資源工学科 4 年)
- ◎『折りヅル』名嘉司央里
(沖縄国際大学・総合文化学部日本文化学科 4 年)
- ◎『思う』猩良
(琉球大学・法文学部国際言語文化学科 4 年)
- ◎『青に手を伸ばして』金城絵音 (沖縄工業高等専門学校・メディア情報工学科 4 年)



第 1 回から第 7 回までの作品集

なお、佳作を含む受賞作品は平成 27 年 3 月下旬に作品集として冊子体で発行され、図書館ホームページや琉球大学学術リポジトリで公開予定です。

就職

平成26年度琉球大学就職センターと保護者との懇談会を開催

「平成 26 年度琉球大学就職センターと保護者との懇談会」を、琉大祭の開催時期に併せて、平成 26 年 9 月 27 日 (土) 及び 28 日 (日) の両日、13 時から 14 時 30 分まで法文学部新棟 215 教室において開催しました。

昨年度に引き続き、学部 1～3 年次学生の保護者を対象に「最近の大学における就職状況について、大学と

保護者との相互理解を深める」ことを目的に実施し、会場には、琉大祭の見学も兼ねて、初日 132 名、2 日目 122 名の保護者が県内外から参加しました。

懇談会では、松本剛就職センター長の開会挨拶の後、キャリア・アドバイザー（27 日は東門晶子さん、28 日は次呂久由利恵さんが担当）による就職活動支援状況の報告があり、その後「就活の心構えと就職センターの利用について」を松本就職センター長が説明しました。

引き続き、両日とも就職内定学生 5 人による就職活動の体験報告があり、その中の保護者（親）との関わり方については関心も高くメモをとる保護者もいらっしゃいました。

終了後、父母から「就職活動との関わりで、アルバイトを何年次の何時ごろまでさせて良いのか」等の質問があり、内定学生からは、面接試験ではアルバイトの経験関連の質問があるなどアルバイトの効用もあり、就職活動中はアルバイト従事時間の短縮やシフトの変更など工夫ができることから、アルバイトについて肯定的な発言がありました。

第 2 部として、場所を就職センターに移し、個別就職相談及び就職センター見学会を実施しました。

保護者からのアンケートでは、満足度が高く、次回開催の要望が多く寄せられました。



松本就職センター長の説明の様子



就職内定学生 5 人による就職活動の体験報告

=うりずんプロジェクト= 2015春期インターンシップ・プレセミナーを開催

文部科学省補助事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマ B】インターンシップ等の取組拡大」において採択されたうりずんプロジェクト〔正式名称「うりずんプロジェクト～「沖縄型」インターンシップの展開～」〕幹事校は琉球大学、連携校は名城大学、沖縄大学、沖縄キリスト教学院大学、沖縄国際大学）では、平成 26 年 8 月 1 日に沖縄地域インターンシップ推進協議会を設置し、実質的に事業をスタートしました。

初年度事業として、沖縄地域インターンシップ推進協議会主催「2015 春期インターンシップ・プレセミナー」を平成 26 年 10 月 18 日（土）13:30～17:00、琉球大学大学会館 3 階の特別会議室（大ホール）で開催し、学生及び企業等担当者、計 77 名が参加しました。

同プレセミナーは、来年春期インターンシップ実施に向けて、県内学生に対し、インターンシップの意義や目的、種類などインターンシップにまつわる疑問に答えるために企画したもの。

プログラム内容としては、次のとおり実施しました。

①インターンシップの説明等（琉球大学就職センター コーディネーター川平敦氏）

②講演「インターンシップで自身を掴む方法」

（特定非営利活動法人 沖縄人財クラスタ研究会 代表理事 白井旬氏）

③インターンシップ経験者によるパネルディスカッション

庄司健太さん（琉大 3 年、Gut's 経験）、伊藤巧さん（琉大 3 年、社長弟子入りツアー経験）、

若山恵美さん（沖国大 4 年、長期インターンシップ経験）、喜屋武憂華さん（名城大 4 年、海外インターンシップ経験）

④グループセッション

インターンシップ経験者と企業担当者を含めたグループごとで意見、情報交換を行いました。

講演では白井氏から「勉強と学習は違う。学習は行動を変化させることであり、G-PDCA サイクルでは、目

的や目標などの Goal が明確でないと PDCA サイクルを回しても効果が薄い、また、Can（現在）と Be（未来）の違いとはの説明では、Can「できるか」「できないか」の判断ではなく、Be「未来の自分」を描き、そのギャップを埋めるために今、自身で行動する（Do）ことが大事」との話がありました。

パネルディスカッションでは、4名のパネラーがそれぞれに経験したインターンシップ種類や企業での状況を語り、「インターンシップを経験したことで、自分の強みを話すことができ、自分に自信がついた」、「現状の自分が客観的に見えてきた」、「インターンシップで、企業広報 HP・概要パンフでは知ることができない中小企業の社風や、社長が社員を大事にしていることが実感できた」、「インターンシップを終了した後に、職業意識が出来てきたと感じた」等のポジティブな発言がありました。

参加者アンケートでは「パネラーが自分と歳が変わらないのにインターンシップ経験を活かし、学習して次に活かしている話をしており、とてもかっこよく感じました。忘れかけていたモチベーションが上がった」、「最初は乗り気でなく、インターンシップに興味もないまま友達に誘われてきたが、結果参加して良かったです。春休みのインターンシップに行ってみたくくなりました」と好評でした。

また、企業担当者からは「とても良い企画なので、多くの学生に参加してほしい。もっと宣伝すべきだと思う」との意見もありました。



インターンシップ概要説明の様子



パネルディスカッションの様子

「元山和仁記念社長弟子入りツアー」成果を学長に報告

平成 26 年 11 月 11 日（火）に「元山和仁記念社長弟子入りツアー」（主催：東京中小企業家同友会）に参加した琉球大学の学生 6 名と東京中小企業家同友会共同求人委員長の仲田喜義氏、沖縄女子短期大学の元山和仁教授等が大城肇学長を訪問し成果を報告しました。

同ツアーは、東京の中小企業への就職を希望する沖縄県内の学生（学部生、短大生）を公募し、東京中小企業家同友会の会員企業を 1 週間で 2 社訪問（1 社当たり 1 日半の就業体験）してもらい、「社長弟子入り」を通して社長の企業経営ポリシーや社員の仕事を聞き、社員へのインタビュー、模擬試験等を体験して、今後の就職活動の糧とすることを目的としたものです。学生の往復旅費と宿泊費は東京中小企業家同友会が負担して、平成 26 年 9 月 15 日～ 20 日に実施され、県内 7 大学 21 名の学生が参加しました。

琉球大学からは 7 名（法文学部総合社会システム学科の宮城美早紀さん、理学部物質地球科学科の新城大成さん、工学部情報工学科の阿波連智恵さん、上間成晃さん、大瀨憂芽さん、伊藤巧さん、川満涼子さん）が参加しました。

報告会では、仲田委員長から大城学長に、ツアー期間中に学生が毎日記入した実習日誌や企業からの評価票のほか、プログラムや写真を掲載した「平成 26 年度報告集」が手渡され、同ツアーが成功裏に終わったことへのお礼が述べられ、また元山教授からは参加学生の状況報告がなされました。

学生からは「社長弟子入り体験を通して中小企業のイメージが変わった。貴重な体験ができて良かった」、「参加して自分の足りないところが見えてきたので、これからの就活の中で頑張りたい」などの感想が述べられました。

その後、仲田委員長から各学生に対し修了証書の授与が行われ、学長を中心に記念写真を撮りました。

なお、同報告会には、松本剛就職センター長、高橋神奈男学生部長、比嘉義明就職課長、久保和裕同課長代理、川平敦就職センター特命一般職員（インターンシップ・コーディネーター）が同席しました。



報告会の様子



大城肇学長（前列・中央）を囲んで

管理運営

平成26年度 琉球大学・沖縄県高等学校長協会連絡協議会を開催

平成26年9月4日、平成26年度琉球大学・沖縄県高等学校長協会連絡協議会が、沖縄県南部合同庁舎で開催されました。これは「大学、高等学校間の連携・協力をより緊密なものとするために大学教育及び高等学校教育に関わる諸問題について定期的に協議し、本県教育の向上に資する」との趣旨で毎年、琉球大学と高等学校長協会が輪番制で開催しているものです。

今回、琉球大学から大城肇学長、富永大介理事（教育・学生支援担当）及び各学部長ら28名、県高等学校協会から中村孝夫協会長ら64名、合計92名が出席しました。

協議会は2部構成となっており、第1部では文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室長補佐 八島崇氏を講師としてお招きし、「大学入試改革の動向について」との演題で基調講演が行われました。八島氏から「これからの時代に求められる人材の育成を目指し、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的な改革の必要性や、考え方」が示され、参加者らは熱心に耳を傾けていました。

第2部の連絡協議会では、協議事項として「平成27年度大学入試センター試験の実施方法等について」、「平成27年度琉球大学・沖縄県高等学校長協会連絡協議会について」、また質問事項として「入学者選抜要項の主な変更点について」、「特別選抜試験（推薦）の推薦方法について」等について協議が進められ、参加者から活発な意見交換が行われました。



連絡協議会の様子



講演する八島 崇氏

学生と学長との懇談会を開催

琉球大学は、第2回「学生と学長との懇談会」を平成26年10月29日（水）に開催しました。

同懇談会の趣旨は、教育環境、教育方法の改善、学生生活支援、キャリア支援などについて学生と意見交換を行い、今後の教育改善、学生生活等の充実を図ることであり、平成16年度から毎年開催しています。大学側からは大城肇学長、富永大介理事・副学長、吉田安規良学長補佐、北原秋一監事、井上章二大学教育センター長及

び新垣雄光留学生センター長が、学生側からは短期留学派遣学生の代表 9 名が出席しました。

当日は、「留学して感じたこと、大学に対する要望等」をテーマに、留学に要した費用、留学を決めた時期とそのきっかけ、留学先での授業内容、学生が留学に踏み出せない理由、留学前に準備した方がよいこと及び留学を終えて今後のキャンパスライフにどう生かしていくかについて活発な意見交換が行われました。

今後、学生から寄せられた意見等も踏まえ、本学の教育・学生生活支援の在り方について検討していくこととしています。



懇談会の様子



(左より) 吉田安規良学長補佐、大城肇学長、富永大介理事・副学長、新垣雄光留学生センター長

平成26年度琉球大学医学部解剖体慰霊祭を挙

平成 26 年 11 月 19 日 (水)、13 時半から、琉球大学医学部体育館において、御遺族、来賓、教職員、学生など約 500 名が参列する中、平成 26 年度琉球大学医学部解剖体慰霊祭が執り行われました。

本慰霊祭は、御遺族をはじめ関係者の皆様にご臨席いただき、医学の教育・研究及び診療の発展のため、御遺体を本学に提供された数多くの御霊に対し、そのご冥福をお祈りするため、毎年 11 月第 3 水曜日に実施されているものです。

式典は、医学部式歌斉唱のあと、参列者全員で黙祷を捧げ、平成 25 年 11 月以降平成 26 年 10 月末日までの正常解剖体 41 御柱、病理解剖体 23 御柱の御尊名が奉読され、合祀された御霊の追悼を申し上げます。

砂川恵伸琉球大学でいご会会長、大城肇琉球大学長、松下正之医学部長の追悼のことばに続き、医学部学生代表の感謝のことばのあと、医学部混声合唱団によるレクイエムの流れる中、参列者全員が祭壇に白菊を献花し、精霊の安らかな御冥福をお祈りしました。

最後に高山千利教授 (分子解剖学講座) から御遺族への謝辞が述べられ、閉式となりました。



慰霊祭の様子

平成26年度 情報セキュリティ講演会を開催

琉球大学では 12 月 4 日に「情報セキュリティ対策」の一環として、株式会社サンパートナーズ代表取締役で静岡大学客員教授、日本ソーシャルデータサイエンス学会副会長の 中野光義氏を招いて情報セキュリティ講演会を開催しました。

中野氏は、「今、大学職員に求められるセキュリティについて」と題して、最近実際に発生した情報漏えいやSNSで起きた事例を通して最新のセキュリティ事情を、クイズやビデオ教材を交えてわかりやすく紹介、説明をしました。

講演会には、システムの担当者及びセキュリティに関心のある教職員及び学生約50名が参加し、最新のセキュリティへの関心を深めました。



中野光義氏の講演



講演会の様子

第2回琉球大学アドバイザリー(顧問)会議及び講演会・シンポジウムを開催

去る平成26年12月19日、琉球大学にて、アドバイザリー(顧問)会議を開催しました。

本会議は、学長の諮問機関として、本学の円滑な大学運営及び大学が抱える重要事項等に助言を行う事を目的に開催されたものです。

会議では、学長から、琉球大学の改革の方向性及び2050年の琉球大学の姿(長期ビジョン)取組みについて説明があり、顧問の方々からは、「大学として、個人的な研究ではなく、大学の強み、沖縄の特色を前面に出した研究をやるべき」、「薬学・創薬分野の大学としての強化」、「農学部を活用」、「沖縄県との連携の強化」、「企業のニーズ・シーズに対応する研究者の研究データベース化」、「学生には、基礎的な技術を身に付けてほしい」といった貴重なご意見をいただきました。

また、会議終了後には引き続き本学顧問を講師としてお迎えし「大学改革について」の講演会、「産学官連携シンポジウム」を開催しました。

「大学改革について」の講演会では、本学教員及び課長級以上の職員に向け、前京都大学総長、前一般社団法人国立大学協会会長 松本紘氏より、国立大学改革プランを踏まえた第3期中期計画策定に向けて、京都大学の事例を紹介しながら、本学の大学運営に係る方向性・取組の展開について講演していただき、産学官連携シンポジウムでは、一般から参加を募り「沖縄経済における地方創生の方向性」～アジア市場をターゲットにした提言～と題し、日本立地センター理事長 鈴木孝男氏、京都府立医科大学長 吉川敏一氏の両氏に「地方創生」、「沖縄経済振興」、「アジア市場」をキーワードに基調講演をしていただき、また、堀場製作所最高顧問 堀場雅夫氏から、「沖縄の地域特性を活かした産業の創出」などについて様々な助言をいただくなど、それぞれの会場の参加者は熱心に耳を傾けていました。



講演会「大学改革について」



産学官連携シンポジウム 鈴木 孝男氏



吉川 敏一氏



堀場 雅夫氏

教育学部と南部広域行政組合教育委員会との協働事業に関する協定書締結式について

平成 26 年 9 月 2 日（火）午後 2 時から琉球大学において、琉球大学教育学部（小田切忠人学部長）と南部広域行政組合教育委員会（上原武教育長）との協働事業に関する協定書締結式を行いました。

小田切忠人教育学部長と上原武教育長は、教育学部に所属する教員の研究及び学生への教育の向上と、教育委員会の所管する島尻教育研究所の研修事業等及び幼児・児童・生徒を対象とした事業等について相互に連携・協力し、教育の資質向上、並びに学力の向上を目指し、協働して事業を行なうこと等を目的に、協定を結びました。

主な連携・協力事業として、教育についての調査・研究に関すること、教職員の資質向上のための研修に関すること、域内の学校への学習支援活動及び学生のインターンシップに関すること、などとしています。



（左から）小田切忠人教育学部長と上原武教育長

平成26年度琉球大学附属図書館・資料館（風樹館）合同企画展を開催

琉球大学附属図書館及び資料館（風樹館）は、資料の公開や地域貢献の一環として、合同企画展「久米島のくらしと自然」を久米島博物館にて平成 26 年 11 月 2 日から 11 月 16 日の日程で開催しました。本展は平成 25 年度文部科学省大学 COC 事業「地（知）の拠点整備事業」の補助事業に採択された「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業の一環として開催されたものです。

本展では、本学所蔵資料の中から、開催地である久米島に係わる資料を中心に附属図書館より 14 点、資料館より 13 点、共催機関からの展示として 1 点を加えた合計 28 点の原資料と、1960 年頃の久米島の様子を写した写真パネル等 98 点が展示されました。さらに、関連イベントとして、ギャラリートークと 3 回の連続講座が開催されました。

期間中、約 700 名の見学者が訪れ、その模様は新聞でも紹介されました。見学者からは「普段見ることのない資料を見る機会となってよかった」「久米島の固有種の存在を知った」といった感想が多数寄せられました。



展示室でのギャラリートークの様子



連続講座の様子

大学コンソーシアム沖縄設立記念シンポジウム2014を開催

去る平成 26 年 12 月 23 日に、沖縄コンベンションセンター会議棟において、大学コンソーシアム沖縄主催による設立記念シンポジウム 2014 を開催しました。

本シンポジウムは、平成 26 年 9 月 26 日に琉球大学を含む沖縄県内の大学、短期大学、高等専門学校の高専教育機関で構成された一般社団法人大学コンソーシアム沖縄（代表理事：瀬名波榮喜）が設立され、そのキックオフとして開催されました。（一社）大学コンソーシアム沖縄は、県内の高等教育機関が有機的に連携することにより、教育研究を一層充実発展させ、産学官の連携により、地域社会の活性化と発展に貢献することを目的に設立されたものです。

シンポジウムでは、瀬名波榮喜代表理事の歓迎の挨拶の後に、浦崎唯昭沖縄県副知事による沖縄県知事の来賓挨拶の代読が行われ、続いてジョージ岩間沖縄科学技術大学院大学プロボーストによる挨拶が行われました。

その後、3 人による基調講演が行われ、稲嶺恵一氏（りゅうせき参与・元沖縄県知事）による「大学は沖縄地域の為にいかに貢献すべきか」をテーマに第 2 次大戦後の沖縄における高等教育機関の成り立ちや地域社会へ大学が果たす役割についての講話がありました。

続いて、里見朋香氏（文部科学省高等教育局大学振興課長）から「日本における高等教育の課題」をテーマに国における大学改革の動向、大学間の連携による機能強化への期待についての講話がありました。

基調講演の最後に、谷口功氏（全国コンソーシアム協議会代表幹事・熊本大学学長）から「コンソーシアムに期待するもの」をテーマに大学コンソーシアム熊本の活動事例や大学コンソーシアム沖縄に期待することなどについての講話がありました。

その後、基調講演者と主催者の代表 3 人による会場とパネリストによる質疑応答型のパネルディスカッションが行われ、会場からは、「コンソーシアムの設立により、高等教育が行き届きにくい離島に対して教育がより離島に届くと期待してよいのか」との質問に対して、大城肇副代表理事・琉球大学長から、「高等教育機関が沖縄本島に集中している中で、琉球大学では、高等教育の機会を増やすために、宮古島市と石垣市にサテライトキャンパスを設置し、大学の教育研究の成果を還元していきたいと考えている。それと併せて、学生が、島々の中学生や高校生に勉強や進学相談を行っている学生を主体とした琉大塾を開催しており、これは、コンソーシアムの中でも学生の活動として、フィットするのではないかと考える」との回答がありました。その他にも、会場からは、コンソーシアムによる雇用の場の創出の可能性や、コンソーシアムに経済界を巻き込む秘策、北米や欧米でのコンソーシアムの現状、沖縄の学生の本土へのインターンシップへの補助制度などの活発な質問や意見が出され 200 人以上を越す参加者はパネリストへの回答に熱心に耳を傾けていました。

最後に大城肇副代表理事・琉球大学長から閉会の挨拶があり、シンポジウムは終了しました。

今後、本シンポジウムでの成果を、大学コンソーシアム沖縄の運営に活かしていくこととなります。



シンポジウムの様子

環太平洋大学コンソーシアムの形成へ向けた連携に関する覚書の締結

平成 26 年 8 月 19 日、琉球大学は、ペルー・リマ市で開催された「第 18 回 WUB（世界ウチナーンチュ（沖縄県人）ビジネスアソシエーション）世界大会・イン・ペルー」において、大城肇琉球大学長、山里勝己名桜大学長、エルサ・デル・カステイヨ・モリ・パシフィコ大学長（ペルー）の間で、環太平洋大学コンソーシアムの形成へ向けた連携に関する覚書を取り交わしました。

本学は、「地域特性に根ざした国際性豊かなアジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点大学」を将来像に掲げ取り組んでおり、本覚書の締結を端緒として、環太平洋地域における大学及び研究機関との学生交流並びに研究交流等を推進し、「環太平洋大学コンソーシアム」を形成していきたいと考えています。

環太平洋大学コンソーシアムの事務局は琉球大学に置く予定で、今後 WUB や各国の沖縄県人会などのネットワークを活用して、環太平洋地域の大学コンソーシアムへの参加大学を増やすことを目指していきます。



【リマ市内にて】（左から）大城肇琉球大学長、外間登美子琉球大学理事（地域国際連携・男女共同参画担当）、エルサ・デル・カステイヨ・モリ・パシフィコ大学長、山里勝己名桜大学長



第 18 回 WUB（世界ウチナーンチュ（沖縄県人）ビジネスアソシエーション）世界大会・イン・ペルーでの国際教育シンポジウムの様子



第 18 回 WUB（世界ウチナーンチュ（沖縄県人）ビジネスアソシエーション）世界大会・イン・ペルーの国際教育シンポジウム：環太平洋大学コンソーシアムの形成へ向けた提言がなされました。

ヤンゴンコンピュータ大学バハン校と本学工学部の学術交流協定が締結されました

本学工学部はかねてから、ミャンマー連邦共和国のヤンゴンコンピュータ大学バハン校（University of Computer Studies Yangon:Bahan Campus）との学術交流を行うことを計画していました。その交流協定締結に出席するため、高良富夫工学部長、小倉暢之国際交流担当副学部長、玉城史朗教授、そして、ミャンマー出身である Kyawt Yin Win 博士（2012 年本学理工学研究科博士後期課程高良研究室修了）をメンバーとして、平成 26 年 9 月 22 日から 27 日にかけてミャンマーを訪問しました。ヤンゴンコンピュータ大学バハン校は、

ミャンマー連邦共和国における最初のコンピュータ研究教育機関・センターオブエクセレンスとして2012年に創立され、学部教育5年、修士課程2年、博士課程3年の一貫教育を行っています。現在、学部の年次進行中で、学部学生は、一学年200名、教員スタッフ50名を擁するコンピュータ教育・研究に特化した大学でミャンマーではトップクラスの大学として知られています。

本学工学部から参加した4名は9月24日にヤンゴンコンピュータ大学を訪問し、Saw Sanda Aye 学長と高良学部長が学部間交流協定調印式を行いました。その中で、当コンピュータ大学のミッションである、1) 情報通信技術に卓越した優秀な学生を教育する大学として学習環境の向上、2) 専門知識を有し、ミャンマーの国民を教育する特別な責務を担う学生の涵養、3) 教育・研究をサポートするために、優秀な教授陣とスタッフを育成する、という観点から同校の教官等と実質的交流方法について懇談しました。具体的な交流の取り組みとして、修士、博士課程学生の人材交流、教員同士の共同研究の実施方法に関する方向性に関する懇談を行ないました。その後、ミャンマー ICT パークを訪問し、ミャンマーコンピュータ連盟の常務取締役 Myint Mint Than 博士からミャンマーの情報通信産業の現状と将来像についての説明を受け、我が国（特に沖縄県）とミャンマーとの産学官一体となった交流に関し意見交換を行いました。

また、翌26日にはヤンゴンコンピュータ大学 Saw Sanda Aye 学長の格別な取り計らいにより、同校の監督官庁である首都ネーピドーの科学技術省を表敬訪問し、Ba Shwe 副大臣、U Kyaw Zwa Soe 先端科学技術局長、同校とヤンゴン技術大学を監督する Zaw Win 局長等と琉球大学工学部の教育研究交流について意見交換を行いました。その懇談は40分にも及び、特に、Ba Shwe 副大臣の人材育成に対する強い熱意と、本学とミャンマーの大学との交流の重要性に関する貴重な意見を拝聴することができました。

今回は、本学とヤンゴンコンピュータ大学との学術交流協定締結のみならず、IT 関連技術に関するミャンマーと日本との懸け橋の一步として、非常に実りある訪問となったと実感しました。また、今回の訪問においては、同行頂いた Kyawt Yin Win 氏の絶大な協力に感謝申し上げます。



学部間交流協定調印式後の Saw Sanda Aye 学長と高良工学部長の記念品交換



科学技術省での記念写真

左から Zaw Win 局長、U Kyaw Zwa Soe 先端科学技術局長、Ba Shwe 副大臣、高良学部長、Win 博士、小倉副学部長、玉城教授

済州大学(韓国)自然科学部と琉球大学理学部が学生交流覚書を締結

琉球大学理学部と済州大学校(韓国)自然科学部(現地漢字表記は自然科学大学。日本の学部相当組織として、ここでは自然科学部と表記)は、平成26年10月17日(金)に学生交流覚書を締結し、覚書調印式が済州大学で行われました。

覚書調印式には山崎秀雄理学部長、竹村明洋教授、中川鉄水助教らが出席し、済州大学側は Kim Se-Jae 学部長(現地漢字表記では学長)をはじめ、Lee Nam-Ho 教授、Kim Won-Hyeong 教授等多くの関係者が出席しました。

この度の覚書は、1991年に済州大学と琉球大学で締結した大学間学術・教育交流協定に基づくもので、これまで両学部間で行ってきた研究者による学術交流を更に拡大し、学部学生並びに大学院学生の教育交流を推進する目的で締結されました。

調印式に先立ち、Hur Hyang-Jin(許香珍)総長を表敬訪問しました。済州島が観光産業を柱として、豊かな自然を活かした産官学連携活動の推進を重視していることが紹介され、改めて済州島と沖縄、済州大学と琉球大

学には多くの共通点があることが再認識されました。調印式終了後は、済州大学海洋科学研究所と JTP (Jeju Techno Park) 内にある Baranul Jeju Water Agency を訪問し、済州島における産学官連携研究についての説明を受けました。

なお、調印式の模様は、同日の地元紙「メディア・チェジュ」夕刊で報道されました。



済州大学（韓国）と学生交流覚書を締結



覚書を取り交わす Kim Se-Jae 自然科学大学長（右）と山崎秀雄 理学部長



Hur Hyang-Jin 済州大学総長表敬

沖縄地域留学生交流推進協議会「沖縄文化講演会」及び「留学生等親善交流会」を開催

沖縄地域留学生交流推進協議会（幹事校：琉球大学）では、沖縄地域における外国人留学生が沖縄地域の文化をより理解し、沖縄県に留学した意義を深めてもらうため、平成 26 年 12 月 3 日に留学生等を対象に沖縄文化講演会を開催しました。

琉球古武道哲心館協会の玉寄英美会長を講師に招き、「沖縄の古武道について」と題しての講演会を行い、約 130 人の参加者がありました。

講演会では、沖縄の伝統文化である「琉球古武道」は、「空手」と違い、武具を使用し、その歴史的背景も異なるとの説明がありました。また、これまでの玉寄会長ご自身の体験を交え、サイ（武具）を使った練習を何万回も繰り返すことを自分に課し、鍛錬によって「体得した瞬間の感覚は決して忘れることはない。」との説明に留学生もうなずいていました。説明後に行ったサイ・棒（武具）を使った迫力ある演武では、集中と弛緩の技に多くの留学生が身を乗り出し見入っていました。

最後に玉寄会長は、「沖縄の文化に触れることによって、自分の国の文化の素晴らしさに気づききっかけにしてほしい。」と語り、講演会を締めくくりました。

引き続き同日開催した同協議会留学生等親善交流会には、約 400 人の参加者で賑わい、沖縄地域における留学生同士の交流を深める一日となりました。



受賞等

理工学研究科 博士前期課程(電気電子工学専攻)の城間 悠平さんと高江洲 克斗さんが「国際会議ICEE 2014」において最優秀論文賞を受賞

平成 26 年 6 月 15 - 19 日に韓国のチェジュ島で開催された『ICEE 2014(International Conference on Electrical Engineering 2014 (電気工学技術国際会議))』において、理工学研究科博士前期課程電気電子工学

専攻1年次の城間悠平さんおよび高江洲克斗さんが国際会議長 Ho-Yong Kim 氏より最優秀論文賞を授与されました。

ICEE は日本、中国、韓国、香港の4つの電気学会が世界に向けて毎年共同開催している電力エネルギー分野の国際会議であり、本賞は当該国際会議における論文の中で特に優れたものに対して与えられるものです。

城間さんの受賞論文は「Islanding Operation and Reconnection Operation of Distribution Generators in Distribution Systems at Time of Power Fault using Smart Grid Technology」であり、再生可能エネルギーを大量に導入した電力系統において線路故障が発生した場合に配電系統を電力系統から切り離して自立運転を行い、その後に線路故障が除去されると電圧の位相同期完了後に再連系運転を達成するものです。自立運転中においても各分散型電源により配電電圧および周波数を適正值範囲内に維持でき、本システムが適用された地域の電力受給者は系統故障の影響を受けることなく安定した電力が使用できます。配電系統レベルでの自立運転を考慮する本研究成果を適用することによって、今後マイクログリッドおよびスマートグリッドの普及が期待されます。

高江洲さんの受賞論文「An Improved FOCV Method for MPPT Control of Stand-Along Solar Power System」で、独立型太陽光発電システムの発電電力量が最大となるような制御 (MPPT 制御) を達成するものです。太陽光発電は天候の変化によって最適な動作電圧が変化し、特に太陽パネル上に部分的に影が生じた場合は制御が困難となります。受賞論文では太陽光パネル上の部分影にも対応した MPPT 制御を可能としています。本研究成果を太陽光発電システムへの適用することで太陽光発電の発電電力量増加が期待されます。

今回の受賞にあたって、2人は「ICEEにおいて受賞できたのも指導教員である千住智信先生および浦崎直光先生ならびに研究室メンバーのおかげです。これから、さらに電力・エネルギーに関する知識を深め、研究に邁進していきたいと思っております。」とコメントし、喜びを表現しました。



(左より) 城間悠平さんと高江洲克斗さん

観光産業科学部産業経営学科 井川浩輔ゼミナールの学生15名が「産学連携ツーリズムセミナー」におけるアイデア・研究発表で最優秀賞を受賞

平成26年9月26日に東京ビッグサイト(東京都江東区有明)で開催された「産学連携ツーリズムセミナー」(公益社団法人日本観光振興協会主催)におけるアイデア・研究発表で、観光産業科学部 産業経営学科井川浩輔ゼミナールの3・4年次学生15名(代表者:3年次屋我星乃さん、発表者:3年次真栄城佑理さん)が、公益社団法人日本観光振興協会理事長見並陽一氏より最優秀賞を授与されました。

産学連携ツーリズムセミナーは、2005年から産学連携事業の一環として学生と社会人を対象に実施されてきた「産学連携オープンセミナー」を、ツーリズム EXPO ジャパン 2014 に合わせて新たに発展させる形で開催されたものです。本年度の参加人員は、学生および学校関係者213名、社会人(報道関係者含む)77名の290名でした。そのセミナーの第2部において、学生による観光振興に関するアイデア・研究発表が行われました。

アイデア・研究発表のテーマは「2020年のツーリズム～私の考える観光振興のための方策～」で、全国の大学や大学院など約50団体からの応募がありました。8月11日に実施された審査会の結果、その中から成績上位4校(大学2校、大学院2校)が発表校に選ばれました。本賞は9月26日に行われた最終プレゼンテーションの中で最も優れた1校に対して与えられるものです。

受賞アイデア・研究のタイトルは「TOMODACHI PROJECT～SNSでマッチング!観光サービス交換によりツーウェイ・ツーリズムを活性化させよう～」です。このアイデアは、異なる地域に住む人同士がSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を利用してペア(TOMODACHI)になり、交互に自分の地元をパートナーに紹介しながらマニアックな観光を楽しむことで、地域間交流を活発にしようというものです。このアイデアを沖縄で実際に参加者を募集しプロジェクトとして行い、そこで様々なデータを収集して研究という形にまとめました。2020年の東京オリンピック開催に向けて、このアイデアが日本中に、さらには世界中に普及することが期待されます。

今回の受賞にあたって、代表者の屋我さんは「本アイデアが日本全体の観光サービスのレベルを向上させ観

光立国の実現の一助になると信じ、サービス実現に向けてこれからも精進してまいります。」とコメントし、また、発表者の真栄城さんは「産学連携ツーリズムセミナーに向けてゼミ生全員で頑張ってきましたので、みんなの思いを力に発表しました。このプロジェクトに関わって下さったモニターの皆さんを初め多くの方々に心から感謝申し上げます。」と、喜びを表現しました。



井川ゼミの皆さん
(上段左から3番目が真栄城佑理さん、その右側が屋我星乃さん)

理工学研究科博士前期課程 海洋環境学専攻・JSPS特別研究員DCの小林峻さんが、第3回いきものにぎわい市民活動大賞「富士フィルム・グリーンファンド活動奨励賞」を受賞

理工学研究科博士後期課程海洋環境学専攻・日本学術振興会 (JSPS) 特別研究員 -DC の小林峻さんが、第3回いきものにぎわい市民活動大賞「富士フィルム・グリーンファンド活動奨励賞」を受賞しました。

これは、『いきものにぎわい企業活動コンテスト (後援: 環境省及び農林水産省)』において、企業を対象として生物多様性保全に関わる活動に賞を授与しているものですが、企業活動のみではなく、市民活動も重要かつ必要不可欠なものであるという考えのもと、市民活動も対象としたものです。

小林さんの「大分県指定天然記念物カマエカズラの繁殖生態と保全に関する研究」は、大分県における天然記念物カマエカズラの学術調査、保全活動、小学校での出前授業、新聞や来訪者への解説活動などが評価されました。

小林さんの今後の活躍に、大きな期待が寄せられています。



受賞した小林峻さん

学生活動

起業家育成研修(リクルートホールディングス株式会社主催)に、法文学部国際言語文化学科3年次の伊芸拓真さんが参加

平成26年9月、リクルートホールディングス株式会社主催の起業家育成研修が、アメリカを横断しながら2週間にわたり行われました。この研修の目的は、シリコンバレーを始めとした最先端テクノロジーとビジネスおよび、起業のプラットフォームとしてのアメリカを目の当たりにし、自分たちに何が出来るのかを存分に考えることにあります。研修には日本国内の大学から多くの学生が応募し、12名が選出されました。選出されたメンバーに東京大学や早稲田大学など、首都圏の大学の学生が多いなか、本学の法文学部国際言語文化学科3年次の伊芸拓真さんが参加しました。

この研修は、アメリカ見学といったよくあるようなものとは違い、実際にMIT (マサチューセッツ工科大学) の学生や卒業生とディスカッションを行ったり、ニューヨークのタイムズスクエアを歩く人々に仮説検証を実行したりするなど、頭も体もフル活用するとともに有意義な内容で、日本にいたるだけでは想像できないような領域を追求し、柔軟な発想や考え方を身につけ今後の活動に活かすべく参加者一人一人が学びと経験を糧にすることができました。

研修内容は下記のとおりです。

●ボストン

- ・MIT Media Lab 助教授のスプツニ子先生とのワークショップ
- ・MIT Media Lab にて石井副所長との対談
- ・ハーバード大学見学
- ・マサチューセッツ工科大学 (MIT) 見学

●ニューヨーク

- ・自らのアイデアを投資家にピッチ (英語)
- ・インキュベート施設にて仮説検証のワークショップ

●サンフランシスコ

- ・スタンフォード大学 d.school 講師ニール・イヤール氏によるホックモデルによる顧客獲得論講義
- ・デザインコンサルティングファーム IDEO によるデザイン思考ワークショップ
- ・AppSocially 協力のもと、プロダクト開発
- ・スタンフォード大学見学

伊芸さんが下記のとおり感想を述べています。

今回のインターンに参加できて学べたことは大きくわけて3つあります。1つ目は思考の幅と深さに限界の無いことです。MITの学生たちの知識量と思考量は圧倒的で、それは日本にいると感ずることのできない大きな壁に思えました。哲学・経済・電子工学・生物学、どれをとっても専門的な方々が生徒であり教師でもあるため、ある事柄について話す時、様々な観点から議論を重ね、新たな発見をしていくことが当たり前な環境がそこにはありました。それは、一つの専門を突出して伸ばす日本の大学機関だと感ずることのできないものだと思います。その環境を目の当たりにすると、僕自身勉強不足ですごく悔しかったと同時に、同じステージに立てるような人材になりたいと心の底から思えました。

2つ目に自分自身について見直すきっかけと次の課題を得られたことです。研修で関わる人々が、社会問題であったり、誰かの抱えている問題を解決するために本気で取り組んでいる様子が伺えました。彼らの背中とその生き様を見ると、自分が有りたい姿はどのようなものなのかという新しい課題が浮かび上がり、それを真剣に考えるきっかけになりました。

最後に人との関わりと彼らへの感謝です。研修を主催して下さったリクルート様や講義を担当していただいた方々、そして一緒に参加した他11人の学生と関わる事ができた事、そしてこのような素晴らしい学びの機会を与えて下さった事への感謝でいっぱいです。そしてこの気持ちは日常でも当たり前を持つべきで、僕自身色々な人の様々な努力と思いやりに支えられて今があるということを忘れず、自分には何ができるのか見定めて今後とも生きていこうと思いました。



研修に参加したメンバーと (右から4番目が伊芸拓真さん)

■ 平成27年度学年暦 ※1

前 学 期	
(平成27年)	
4月1日(水)	学年及び前学期開始
4月1日(水)	成績通知書交付・時間割表配布
4月2日(木)～4月3日(金)	新入生オリエンテーション
4月6日(月)～4月7日(火)	
4月2日(木)～4月7日(火)	前学期仮登録
4月3日(金)	入学式
4月9日(木)	前学期履修登録確認表配布
4月10日(金)	前学期授業開始
4月10日(金)～4月23日(木)	登録調整期間
4月14日(火)～4月28日(火)	定期健康診断
5月7日(木)	月曜日授業振り替え(※4)
5月22日(金)	開学記念日(休講)
5月22日(金)	体育祭(休講)
6月1日(月)～10月31日(土)	教育実習
6月23日(火)	慰霊の日(休講)
7月18日(土)	琉球大学説明会(オープンキャンパス)
7月31日(金)、8月3日(月)	前学期試験期間(※2)
8月6日(木)	
8月11日(火)～8月12日(水)	英語全学統一テスト(※5)
8月7日(金)	
8月10日(月)、8月13日(木)	予備日(※3)
8月14日(金)	英語全学統一テスト予備日(※5)
8月15日(土)～9月23日(水)	夏季休業
9月26日(土)～9月27日(日)	琉大祭
9月28日(月)	成績通知書交付・時間割表配布
9月28日(月)～10月1日(木)	後学期仮登録(28日は午後から)
9月30日(火)	前学期終了

後 学 期	
(平成27年)	
10月1日(木)	後学期開始
10月5日(月)	後学期履修登録確認表配布
10月6日(火)	後学期授業開始
10月6日(火)～10月20日(火)	登録調整期間
10月11日(日)	琉大祭予備日
10月13日(火)	月曜日授業振り替え(※4)
11月25日(水)	月曜日授業振り替え(※4)
12月3日(木)	推薦入試(休講)
12月29日(火)～1月4日(月)	冬季休業
(平成28年)	
1月5日(火)	後学期後半授業開始
1月15日(金)	午後：センター試験準備(終日休講)
1月16日(土)～1月17日(日)	大学入試センター試験
2月4日(木)～2月5日(金)	後学期試験期間(※2)
2月8日(月)～2月10日(水)	
2月12日(金)	英語全学統一テスト(※5)
2月15日(月)～2月16日(火)	予備日(※3)
2月17日(水)	英語全学統一テスト予備日(※5)
2月18日(木)～3月31日(木)	春季休業
2月25日(木)～2月26日(金)	一般入試「前期日程」
3月12日(土)～3月13日(日)	一般入試「後期日程」
3月18日(金)	卒業式
3月31日(木)	学年及び後学期終了

※1: 医学部医学科第2年次以降の学年暦はこの学年暦に準じ医学部において定める。
 ※2: 試験期間は期末試験や補講を行う。
 ※3: 予備日は台風等で全学休講になった日の授業又は定期試験を行う。
 ※4: 5月7日(木)、10月13日(火)、11月25日(水)は月曜日の振替日とし、他の曜日の講義・試験・補講・実習等を行わない。
 ※5: 前学期は大学英語の受講者が対象。(後学期は前学期未履修者及び3年次)

大学からのお知らせ

授業料の納入について

○授業料納入期限

前 学 期	後 学 期
4月30日	10月31日

期限内に必ず納めてください。大学での教育は皆様の授業料で賄われております。
 ※授業料の口座振替日が休日の場合は、金融機関の翌営業日に振替します。
 ※期限後、督促をしてもなお未納の場合は除籍になりますので、特にご注意ください。

支払いを
忘れそう...

銀行振込する
時間がない...

➡

そんなときは

口座振替

をご利用ください。

口座振替に関する問い合わせ先

琉球大学財務部経理課収入・支出係 [電話番号] 098-895-8058

授業料の金額については、下記を参照ください。

【大学公式ホームページ】→Contentsの【学生生活】→【授業料・入学料等の金額について【PDF】】
http://www.u-ryukyu.ac.jp/internal/campus_life/schoolfees/schoolfees.pdf

保護者の皆様へ

本誌は、入学時に登録された学生の保護者等の住所へ送付しております。
 住所変更等がございましたら、学生本人から、学生の所属する学部の窓口まで届け出るようお願いします。

琉大ニュースレターは琉球大学公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.u-ryukyu.ac.jp/>

【大学公式ホームページ】→【大学情報】→【広報】→【琉大ニュースレター】

携帯電話で下記のQRコードを読み込むと、琉球大学の入試情報ケータイサイトにアクセスできます。

※バーコードリーダー機能付きの携帯電話で読み取れます。「琉球大学入試情報ケータイサイト」 <http://daigaku.jp/u-ryukyu/>

QRコード

